





目録

一 明智光秀本姓支押ある事

一 内衆兼九折見の事

一 信長公弓場大軍を退く事

一 附安田能云清なる名の事

一 明智光俊二条の城へ押寄合戦の事

一 附若田去意と法師丸をよめる事

一 持宗宛来り事在中里和贈りたる事

一 附光秀斗異と云る事打撃んとする事

一 織田信澄明智方へ合戦の事

一 附丹羽長秀家来上向水信澄と討死の事

一 羽染秀吉一掃がゆき危難の事

一 附如着清正曰至天但馬ち成討事

一 明石城を度人出り輝世城跡にて切腹の事

一 附中川遊走福徳市松口海の事

一 秀吉の秘智法巧威伏の事

一 附尾が橋へ来陣の事





目録

秀吉惣大将と頼朝は軍評定の事

附山崎入る津浦への事

明智光秀八幡若菜出陣の事

附耳利八が定一番槍多名の事

母友内務助父子勇戦ある元軍の事

附百指を帯助秀吉死をある事

丹羽元相は悪働き頼朝の級不由法の事

附城久を帯又山崎と松田を帯と討つ事

筒井順意重切明智方惣敵軍の事

附稲津万兵衛後夜勇戦しと討死の事

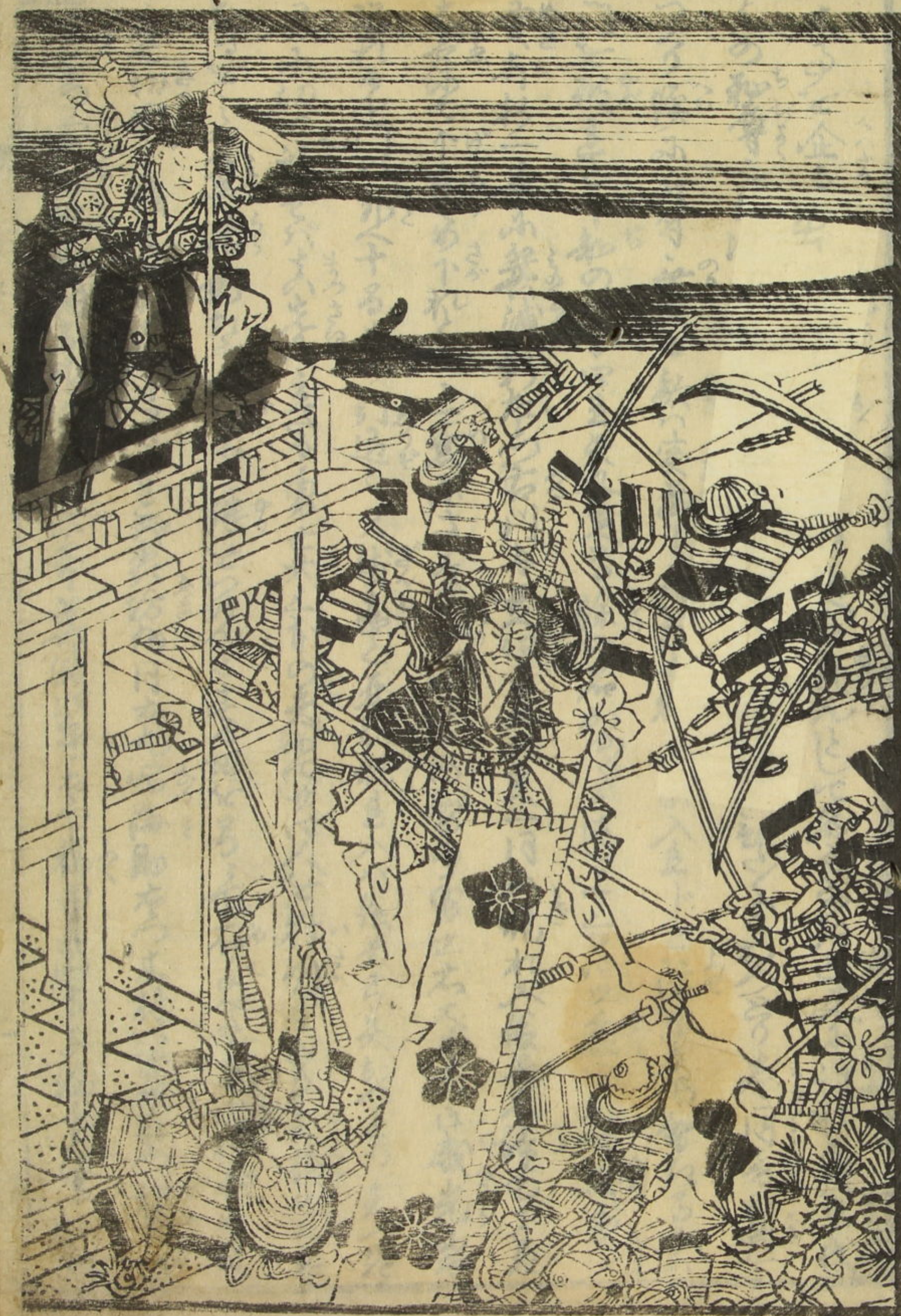
明智光秀農丈中村長足小討つ事

附明智秀俊湖水と流り徳人の目録ある事

安土城秀吉於凱陣の事

附明智方沙童生捕と殊戦ある事

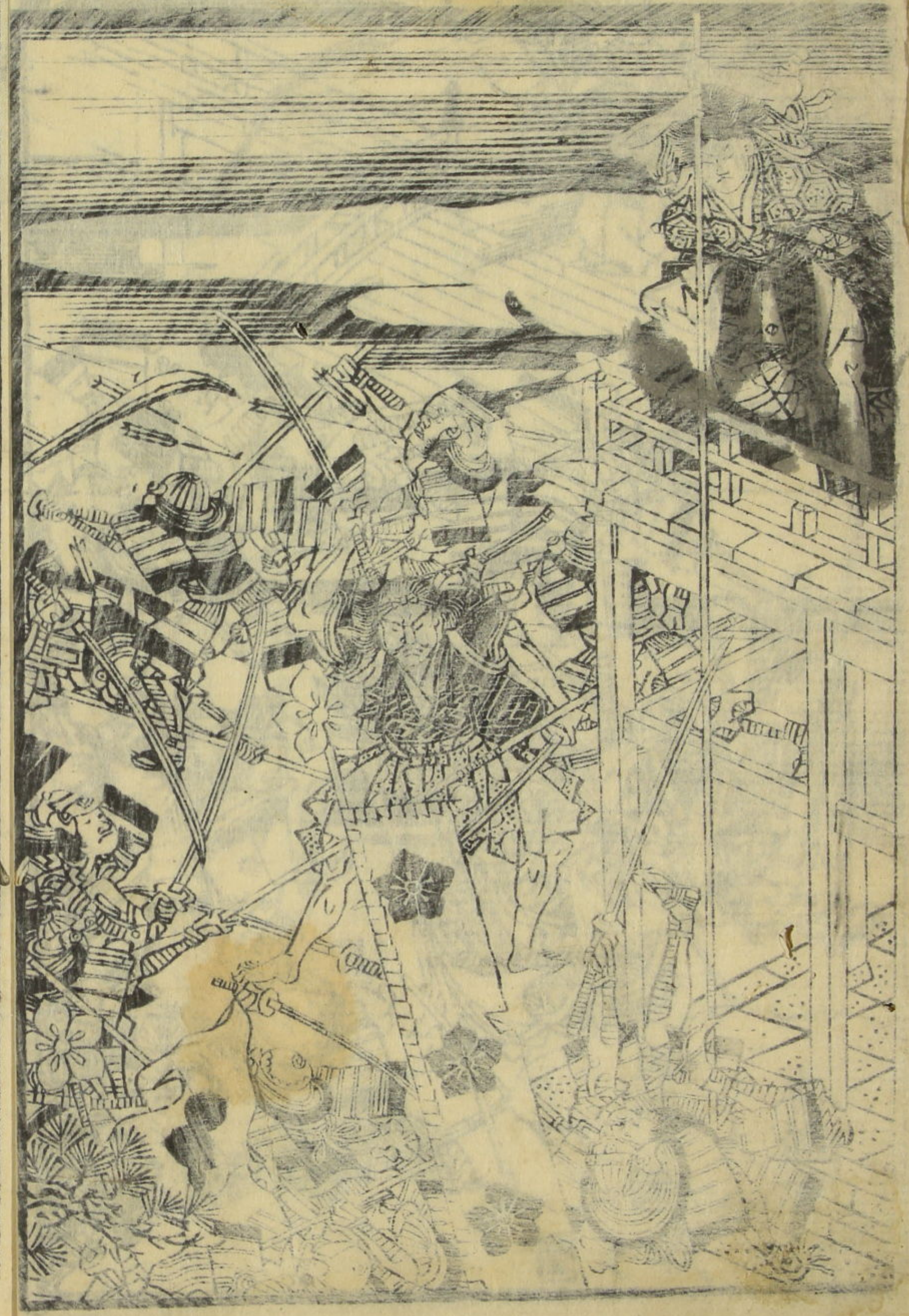




本能寺  
大合

戰之圖





入るて企る者伏櫓を垂んとす少き遊んじて名もあたる匠更ふ付れあ末代  
 との和尊之只深より自教せんと言ふもあく表裏を切つてあつり其月暮の園を  
 つ方候みお付し入る敵の突前へ矢を射射るとい入まどと活けり内智なるか  
 門を破ると下和の下が空に矢又受る途の石かぶとほよと四ツ龍を打た獲る  
 貴打杉一番み箕浦新なる古川を渡り至天又又一月みれれ入信長大滝の  
 大巻ゆて下和め下れの上意みたまふ家以り内智の勇士右大臣の巨威光也  
 されを門の如十るす引退く只妙事と再びれ入ハ信長ら矢あつり矢つた  
 りふ切て放せばままふまする勇士女之かの矢あて女口人と射例一より矢槍のつた  
 たつてとて箕浦新なる大巻り進つてんとする西をもち右をへてき伏せ石を  
 是切例一信長公かくのうらふまふ表治九月九日海助をう木村次郎ねん  
 原ちう雲林院出羽守信長らよと兼箕浦は守ちう後田之海も子孫をいふ







































加藤とて同日毛利勢陣を以て先登御所廣徳内陣あり秀吉は搦陣  
非淺くは御陣ありとて又同日九月秀吉非淺くは御所廣徳内陣あり秀吉は搦陣  
威を去りさんあまふふたのく攻上る為田河津並に後村子田生利村  
堀尾隆次賀福徳行相の徳勇士惣軍二万八千余騎のみふりて此  
のころ加藤も維任日向り先登織田家の徳右と治のきとてありとて  
この御所筑あり毛利と和藤とのみ攻上るよ一皇皇先登曰王天徳  
るも内名候を更ふ持がまの牛馬成さけ中途を討たべと命ト  
屋敷の南吉吉人持物云摩西の夫尾が橋の海をみく農史のこさふ  
せもろを成候とろふ結りたり羽柴勢六月八日冬天ふもあわれ非淺  
より尾と治十之重余成さきりく妙りありとて申の中十刻ふ尾が橋の  
は方あり急びふもを來表せふは又も治くみのく治二丁かたれ

たりはふまのり明智の伏揚秀吉とて八方より進りまのり  
一方老を遣ふあふ亮まのり右五の田屋とて成わどろせふはんごろ  
秀吉もふ教うのく通せんともまのり王天徳馬ちこの色の素因成え  
あひるふ治具の尾ゆり止りありえ若くは橋冠者あびるもと天雷の落  
かちがうらたの天者王げ退かひる秀吉向の成えれば寺山成り止り  
あふと方とてころ秀吉もろの鼻成引かへ一尾と七八寸切つころり  
より荒るふ初とありえ来り一尾成成りて候もふ出合ありとて  
つんとは候もろ必を御所のりもあひる源田のあり扱込んごらひ  
御もろ秀吉も同ふ治入りては六蛇火成えんごらひ村分りて大勢御  
集まるゆふ夜区懸くその修意人のゆく甲冑成候は赤とて  
とありのりも非淺くは御所のりもあひる源田のあり扱込んごらひ



































